本研究のフェーズは、□基礎　■基礎～臨床　□臨床　です

環境毒物による糖尿病発症機構の解明

講師
濵口　真英

① アピールポイント

環境毒物が喘息などの呼吸器疾患だけでなく、糖尿病・メタボリックシンドロームといった代謝疾患を発症させる仕組みを明らかにします。

② 研究の出口のイメージ

健康被害を低減する環境対策を提案します。
環境毒物の影響を最小化する化学予防法を開発します。
環境毒素の少ない社会をもたらし糖尿病を予防します

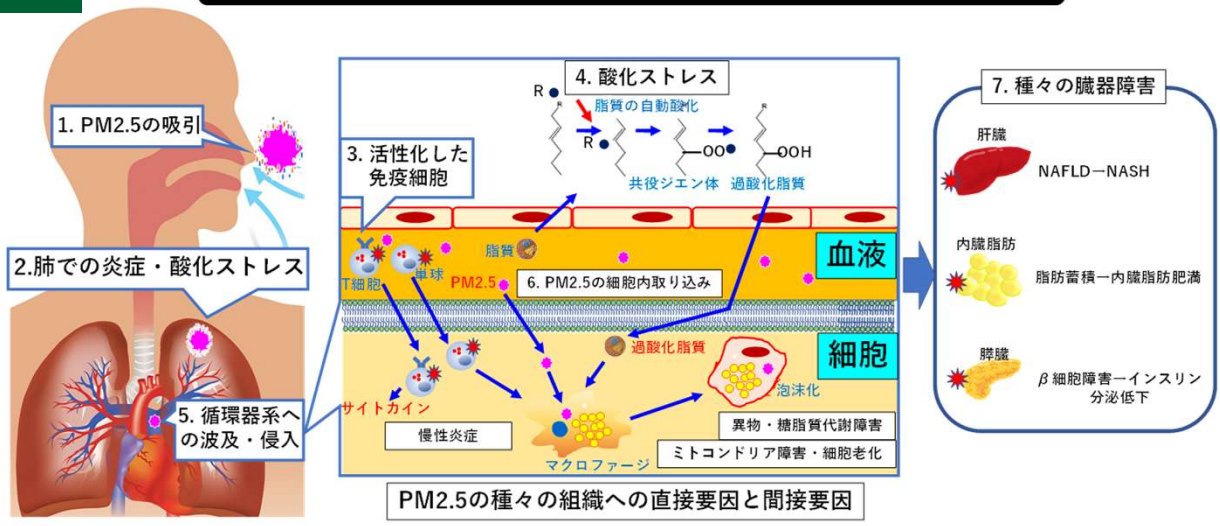
キーワード

環境毒物、メタボリックシンドローム、糖尿病、脂質異常症、生活習慣病

研究内容

PM2.5、マイクロプラスチック、環境ホルモンと今日においても環境毒物は様々な健康被害をもたらしています。

PM2.5による糖・脂質代謝障害の想定メカニズム



PM2.5の種々の組織への直接要因と間接要因

本研究では、実社会で健康被害をもたらしている環境毒物を疾患モデル動物に経気道投与し、糖・脂質代謝障害の発症を評価します。
代謝障害をメタボローム解析、免疫障害をシングルセルシークエンス解析し、これらオミクスを統合解析することで環境毒物の代謝への影響を包括的かつ網羅的に明らかにします。

京都府立医科大学
KYOTO PREFECTURAL UNIVERSITY OF MEDICINE

問合せ先
情報・研究支援課
TEL: 075-251-5168　FAX: 075-251-5275
E-mail: kikaku01@koto.kpu-m.ac.jp